

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670600309		
法人名	有限会社 街の灯		
事業所名	グループホーム北白川		
所在地	京都市左京区北白川東平井町13		
自己評価作成日	平成30年09月10日	評価結果市町村受理日	平成31年2月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JirvosyoCd=2670600309-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成30年12月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

北白川の疎水辺りで、環境に恵まれた大きな民家を改造し、開設してから18年を超えました。この間、地域の方々や、ご家族にもご協力頂き、職員も育てて頂きました。軽度で力を発揮できる方や、10年を超える方の終末介護までと、幅の広い介護を行っています。医療連携も充実し大きな安心となっています。毎年開催するミニコンサートやクリスマス会は、お利用者又ご家族も楽しみにされています。ご利用者は家事や体操、ゲームや歌などを喜ばれ、天気の良い日には散歩に出かけ地域の方々とお喋りを楽しみにされています。認知症になっても普通の暮らしを続けられるよう、支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は、地域との連携を大切にしており地蔵盆や防災訓練等の地域行事への参加や、近隣の小学校で実施する認知症の学習会に職員が参加したり、事業所で開催するコンサートやクリスマス会には地域の方の参加を得て一緒に楽しむ等、地域との交流を活発に行っています。友人や知人、女性の仲間等多数の方の面会や職員と馴染みの商店や公園に出かけたり、家族と以前に行ったことのある神社への旅行に出かける利用者もいる等、馴染みの人や場所との関係継続を支援しています。食事も三食共事業所で作り職員も利用者と談笑しながら同じ物を摂っており、庭で作った野菜を使ったり、手作りおやつを提供する等食事が楽しみなものとなるよう工夫をしています。職員は利用者が出来ることややりたいことを見出し、生き甲斐を持ちながら暮らせるよう支援をしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に掲げた「心と体にやさしい」という理念に加えて、医療連携や地域、ご家族の皆様と協力し、共に暮らす事を理念としています。管理者と職員は共有し、実践に向けて取り組んでいます。	運営理念を基に作成した事業所独自の理念を玄関等に掲示したり、新任入職時に理念に込めた思い等を説明し職員への意識付けを行っています。常に理念を念頭において支援に取り組み、職員会議の中で理念に沿った支援が出来ているかを振り返り理念の実践にて取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会にも加入し行事に参加。散歩中にご利用者にも声かけや庭のお花を頂いています。地蔵盆用のテントポール保管の協力をしています。	日々の散歩時には挨拶を交わしたり、自治会に加入し回覧板や近隣の方から情報を得て、地域の防災訓練や地蔵盆等に参加したり、祭りの神輿見学にも出かけています。地域の小学校で開催する認知症の学習会に職員が参加したり、地域の方からの介護相談なども受けています。事業所でコンサートやクリスマス会を開催する際には近隣の方に参加してもらい一緒に歌や楽器演奏を楽しむ等、地域との交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前、認知症サポート養成講座を当所で開催しました。地域包括ケア会議に参加し地域行動の参加や、講座講師や小学校学習会にも参加しています。地域の認知症の方のご家族からの相談も受けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議を行い、ケアや取り組みを広報誌と共に配布し、具体的な報告をしています。今年度身体拘束廃止委員会の設置の承諾を頂き報告し話し合いを行いサービス向上に活かしています。	会議は利用者や家族、地域住民、民生委員、地域包括支援センター職員等の参加の下2か月に1回開催し行事の案内や利用者の状況、事故やその対応方法についても報告し意見交換を行っています。地域の情報等や台風による災害の予防策について話し合うなど有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の事業者会議に出席し研修会への参加や、運営推進会議の議事録、広報誌をお届けし、認定更新調査にもご協力頂いています。	運営推進会議の議事録や事業所の広報誌を市や区に直接提出し、運営上の不明点等も相談しています。毎月開催される事業者会議に参加し区役所の職員と意見交換を行い、行政から案内の届く研修には可能な限り参加し協力関係を築くように努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を運営推進会議内に設置し、継続的な内部研修や、身体拘束を行わないケアの報告や検討を行っています。あらかじめご了承の上で、階段上下の扉と昇降機の操作は、危険が伴いますので、職員が行っています。	事業所で身体拘束に関する研修を実施したり、外部の研修を代表職員が受け事業所で内容を伝達し理解を深めています。言葉による行動の制止が見られたらその都度管理者が注意をしています。家族の了承の下センサーを使用している利用者もいますが、必要性については職員間で検討しています。玄関やフロア入口は開錠し外出希望があれば出来るだけ外出し気分転換を図っています。	

グループホーム北白川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	引き続き職員が外部研修を受講し、内部伝達学習で職員と学び、虐待が見過ごされることがないように注意し防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前からも成年後見人制度を学び、活用してきました。現在も活用し支援しています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約または改定の際は、ご利用者やご家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い、ご理解、納得をして頂けるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や行事参加、ご面会時にお話し、信頼関係を築きながら電話やお手紙でも連絡し、お聞きしています。議事録や広報誌をお送りし、助言も頂き運営に反映させるようにしています。	利用者からの要望は日々の関わりの中で聞き、好みの食事やおやつを提供する等、その都度対応しています。家族の意見や要望は面会や電話、運営推進会議時等に聞いており、体重が増えたということで歩く機会を増やしたり、利用者とお泊りたいとの要望を受け実施出来るように調整する等、意見をサービス等に反映するように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見や提案は、職員会議以外でも、日常的に聴く機会を設け、できるだけ速やかに反映させるようにしています。	職員からの意見や提案は全職員参加の2か月毎の会議や日々の業務の中で聞いています。また、職員の様子を見ながら随時面談を行ない聞くこともあります。出された提案から利用者が動きやすいように手摺を付けたり、物の配置を工夫しています。また、事業所の工事中の勤務体制についても職員間で話し合い業務がスムーズに進められるよう体制を整えるなど意見を業務改善等にも反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握しており、各自が向上心を持って働ける様、職場環境、条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者や職員の個々のケアの実際と力量を把握しており、内部外部の研修を受ける機会や、伝達研修を行う機会、働きながらトレーニングしていく事を進めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会の為に、研修やネットワーク作りの会議に参加させ、実習生の見学も受け入れサービスの質の向上に努めています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が不安、困っておられる事をお聴きし、できるだけご要望に応え、安心して頂けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安やご要望をお聴きし、共にご利用者を支える関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族、ケアマネ等との相談で今必要とされている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、しきたりや文化、行事、礼儀作法、家事など様々な事を、教えて頂きながら日々の暮らしの中で、共に支え合う関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお手紙やご面会時、行事参加、お電話等で、ご利用者の様子をお伝えし、対応等の相談を行いながら、共にご本人を支える関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の馴染みの人や場所との関係が途切れないように、行事へのお誘いや電話での会話支援、墓参、法事参加やご親戚との外食参加に繋げ、友人の面会では最初職員も入り、受け易くしています。	友人や近所の知人等の訪問時にはリビングや居室へ案内しお茶を用意する等ゆっくり過ごしてもらえよう配慮しています。職員と馴染みの商店や公園に出かけたり、家族と自宅や法事、結婚式、墓参り等へ外出する際には身支度や薬等の事前の準備を支援しています。また、以前に行ったことのある場所へ家族と旅行に出かける利用者もあり、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係を把握し、食卓や居間での席、家事やレクなどの取り組み通し、孤立せず、支えあえるような支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、賀状やお電話を頂き、ご相談も受けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時の資料や、その後の暮らしの中で、ご本人の思いの把握に努め、出来るだけ本人本位になるよう検討しています。	入居時に自宅や施設等で面談し利用者や家族から生活歴や身体状況、趣味、思いや意向等を聞き、生活していた施設やケアマネジャーからも情報を得てアセスメントシートに記載し職員間で共有しています。入居後は利用者との日々の会話の中で思いや希望を聞き、表情や様子からも思いを汲み取り、職員間で本人本位に検討し思いや意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人ご家族、これまでの担当ケアマネジャー等からの情報により把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らし方、心身状態、力の発揮等を個人記録に集約し、現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族、医療機関関係者の意見も取り入れ、2ヶ月毎に職員会議でモニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成しています。	本人や家族の意向、アセスメントを基に作成した介護計画は6か月毎にモニタリングを行い見直し、利用者の状態に変化があった場合は随時見直しをしています。見直しの際は職員間で話し合い利用者の状況を把握し、サービス担当者会議を開き事前に聞いた家族や医師等の意見を反映し現状に応じた介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、ケアの実践、結果、気づきは個人記録に集約し、毎月のまとめに全職員が関わり、情報を共有しています。会議だけでなく、日常的に意見交換を行い、介護計画の見直しに活かしています。		

グループホーム北白川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況は一人ひとり異なり、その時々ニーズに合わせ柔軟な支援に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	すぐ近くにお店や、散歩中に休息出来る疎水横のベンチで交流ができ盲導犬を励ます、お地藏様のお参りができる等、本人の力を発揮できる場所があります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の希望をお聞きし通院の方もおられます。協力医療機関から定期、臨時往診で協力を受け、職員と家人を含めた面談も行っています。薬剤師訪問での仕分けや説明、専門医の往診も受けています。	入居時に今までのかかりつけ医を継続するか事業所の協力医に変更するかを選択してもらい、全員が月2回の協力医の往診を受けています。協力医は24時間連絡可能で随時の往診も可能です。専門医への受診は家族の対応を基本とし、受診結果等は書面や電話等で共有しています。月2回訪問看護師による健康チェックを受けており、利用者の希望や必要に応じて訪問歯科による口腔ケアや治療を受けている利用者もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、日々のケアでの気づきや情報を往診や、訪問看護ステーションの看護師に相談し、個々のご利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者の入院時に際しては、安心して治療できるよう、又できるだけ早期に退院できるよう、主治医、ご家族、職員との面談を行い、情報の共有を行えるよう、日頃からの関係づくりに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化対応については指針を説明し、同意を得ています。重度化された場合にも何度も三者面談を繰り返し、ご希望をお聞きし、方針を共有しながら、チームで支援を行っています。	入居時に指針を基に重度化した場合に事業所として出来る対応について家族に説明し同意を得ています。重度化した際には医師から説明を受け家族や医師、職員で話し合い看取りの方針を共有し、家族の頻回な面会等の協力も得ながら支援をしています。また外部の看取り支援の研修に職員代表が参加し、事業所で伝達研修を行い知識を身に付けています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の急変や事故や事故発生時に備えて全職員は応急処置や初期対応の研修を受けており、実践力を身に付けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回、昼夜間想定避難訓練を行っています。初期消火、通報、避難誘導(1階避難部屋や2階デッキ、外通路から道路へ等)を行い、防災用品はまとめて管理し、食料備蓄も行っていきます。	年3回独自で昼夜を想定し、通報や初期消火、利用者も参加し避難場所への誘導等の訓練を行い運営推進会議で訓練の報告を行っています。地域の防災訓練には職員が参加しており、飲料水や缶詰、ビスケット等の食料や防災頭巾、防寒シート、カセットコンロ等を準備しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを配慮した対応に努めています。見学者はご利用者が居室におられる時間帯にお受けしたり、呼称や居室の名札も下のお名前のみとしています。	プライバシーに関する外部研修に職員代表が参加し、事業所で内容を伝達しています。呼称については下の名前と呼ぶことでプライバシーの保護に留意しており、不適切な言葉かけや対応が見られた場合はその都度管理者が注意したり、職員間でも注意をしています。排泄時の声かけは周囲にも配慮し、入浴や排泄介助時は希望があれば同性介助を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で、ご本人の思いを表したり、自己決定できる場面をつくれるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の心身の状態により、家事、散歩や取り組みの参加などで、ご本人の希望に添えるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お気に入りの洋服を選ばれる方、鏡で髪型を気にされる方など、その方らしい身だしなみやおしゃれができるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事献立なども取り入れ、得意な方には調理や盛り付けなどもお願いしています。職員も一緒に食卓に着き、後片付けも協力して頂いています。	食事は三食共事業所で作り、在庫の材料を見ながら1週間分の献立を決め、食材も1週間分ずつ届き、足りない物は利用者と一緒に買いに行くこともあります。利用者にも盛り付けや食器拭き等出来ることに携わってもらい同じ食卓で職員も一緒に食事を摂っています。トマトや胡瓜、オクラなどの庭で採れた野菜を使ったり、ケーキや善哉等を手作りして提供するなど食事が楽しみなものとなるよう工夫をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量やバランスを考え、水分摂取も一日合計を記録しています。摂取方法も刻み食、ミキサー食、トロミ等、状態に合わせて自力摂取できるように支援しています。		

グループホーム北白川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きや口濯ぎを支援し、レベルによりスポンジブラシでケアをしています。義歯の方は、就寝前洗浄し、薬剤保管をしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自己にてトイレ使用できるように、個々のパターンを知り、早めの誘導や手すり、場所がわかる案内をしています。トイレ内で次の動作の説明を行い混乱を防いだり、ポータブル希望の方への支援もしています。	日中は座位の取れる利用者はトイレでの排泄を基本とし、排泄記録を取り個々の排泄パターンを把握し、時間や様子を見ながら声かけやトイレへの案内をしています。尿意が戻り、自力で排泄出来るようになるなど排泄の状態が改善し笑顔や会話が aumentado 利用者もいます。排泄用品の種類や支援方法等について職員間で検討し自立に向けた支援を行っています。時には業者からアドバイスをもらうこともあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や影響を理解し個別の排便記録を取り、便秘をおこさないように対応しています。医療連携や食事の工夫、運動への働きかけなど、予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低でも週2回、体調や気分に合わせて、出来る方には自己洗身して頂き、出来ない部分を支援しています。寝たきりの方も体調に合わせて部分浴をしたり、清拭をしています。	入浴は週2回を目途に午前中に支援し、利用者の状況や希望により午後や夜間の入浴の他回数を増やすことも可能です。入浴拒否が見られる場合は声をかける職員を代えたり日時を変える等の工夫をすることで無理のないよう入浴してもらっています。職員と会話をしたり、歌をうたうなど楽しみながらゆっくりと入ってもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	頻繁に休憩が必要な方にはその時々、短時間の午睡で元気になれる方、就寝後も起きられる方には傾聴し安心して眠られるようにと個別に支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からは説明を受け、薬剤師からは説明と個別分配の協力を受けています。副作用を含めた病状変化に注意し、報告や相談をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な家事や花、野菜への水遣り、趣味を活かした物作り、音楽CDを聞きながら歌う等、これまでの暮らしを活かせるよう支援しています。		

グループホーム北白川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には近隣散歩出かけています。車いすを押しての運動や、帰りは乗られる方等いろいろです。近隣の方のご挨拶やお喋り、ご家族との散歩や外出もあり、地蔵盆や神輿見物にも出かけています。	気候の良い時期には日々散歩や買い物に出かけており、地蔵盆や神輿見物など地域行事にも出かけています。桜の時期には毎日のように近くの疎水に桜を観に出かけたり、紅葉狩り等季節に合わせた外出も行っています。家族と平安神宮に出かけたり、外食や旅行を楽しむ利用者もあり、出来るだけ外出する機会を多く持てるように支援をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在所持されている方はおられません、使える方には、事業所の買い物もの時に使って頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ほとんどの方は、頻繁に面会に來られますが、ご本人の希望に沿って、電話をかけ直接お話できるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階は全て床暖房の板張りですが、2階は畳の和室です。古い民家改造型なので、懐かしい雰囲気があり「ここは、私の家」と言われています。庭に花や野菜を植え、風通しも良く生活感や季節感が出ています。	玄関やリビングに生花を飾り、七夕やクリスマス等季節に応じた飾りつけを行い季節を味わうことが出来ます。廊下にソファや椅子を置き数人で過ごせる空間を設け、テーブルや椅子は利用者同士の相性を考慮し配置しています。利用者の体感に留意しながら温室度を調整し、利用者もテーブル拭き等に携わりながら毎日掃除や換気を行い快適に過ごせる共有空間を作っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や居間、庭やデッキ等、気の合う方々でお喋りされたり、花に水をあげたり、日光浴をされたりと思いいに過ごせる居場所を設けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものをご持参いただくようお願いし、掛け軸や写真、家具など使い慣れたものに囲まれ、居心地よく過ごせる工夫をしています。	入居時に家族に使い慣れた物を持ち込んでもらうように伝えテレビや棚、椅子、家族の写真等を持ち込み、家族と職員が相談しながら配置しています。CDラジカセや楽器、編み物の道具を持ち込み楽しんでる利用者もあり、その人らしい居室となっています。布団を敷いて休むことも可能で、毎日換気や清掃を行い快適に過ごせるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に合わせ、職員へのコールボタンや手すり、階段リフト、声が届く工夫で、安心かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫しています。		